

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名:コスモス)

事業所番号	0670101161		
法人名	医療法人 東北医療福祉会		
事業所名	フラワー小姓町		
所在地	山形県山形市小姓町7番15号		
自己評価作成日	平成24年10月20日	開設年月日	平成14年 7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを大切にしながら、笑顔あふれる居心地の良いユニットを目指しております。一人一人が自分のペースで過ごせるように、居室では一人の時間を、リビングでは、歌の好きな方が多く、懐かしの歌のDVDを観て口ずさんだり、お誕生日には、その日に誕生会を催しケーキを食べながら、昔話に花を咲かせておられます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合 オール・イン・ワン		
所在地	山形県山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24年 11月 19日	評価結果決定日	平成 24年 12月 11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳や権利、個性を尊重しながら地域の中で、安心、安全な生活が継続出来るように、ホーム独自の理念を事務所入り口に掲示している。ユニットでも常に確認できるように掲示シケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の購入は勿論のこと、入居者の入居前利用していた花屋さん等から、入居者が仏前の花を買ったり季節の花を購入し、お付き合い頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にはホームの広報誌を配布し、ホームの生活の様子や取組みを理解して貰えるように取り組んでいる。又、介護実習生の受け入れなど自治体への協力に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に(1回/2ヶ月)運営推進会議を開催し、ホームの活動状況や、入居者の状況等を報告している。又、自己評価や外部評価を基に更なるサービス向上に活かすように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、介護相談員の来訪があり、入居者及びスタッフから意見聴取した内容に基づき、ケアサービス向上のため意見交換を行い、市町村との協力を築けるように努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は玄関の鍵を常に解放し、自由に外へ出入り出来るようにしている。スタッフ間の連携を図りながら活動時には同行し、見守り、声掛けを行って安全に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に於いて虐待について説明を行い、虐待防止、発生防止に努めている。スタッフ間でも言葉使いなどについてお互いに注意したり、ユニット会議などで話し合いの機会を持つなど常に注意するよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解には不足のところがあるので、今後研修会への参加や学習する機会を確保することが必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金や緊急時の協力要請、契約解除等について、詳しく説明し、同意を得ている。また、家族会総会なども利用しながら説明の機会を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の会話や態度から、本人の思いを把握できるよう努めている。また、毎月介護相談員の来訪があり、外部者へ会わせる機会を設けている。家族には、面会来所時に近況報告を行い、意見等を伺っている。家族会を設け、家族からの意見を頂いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎にユニット会議を開催(1回/月)し、話し合った意見を聞き、活かすように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとのコミュニケーション(会議や日々の会話等)の中で、スタッフの希望や意見を聞き、活かすようにしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換研修や、他事業所との意見交換の機会を設けたり、研修の内容や情報などを事業所内で共有出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や交換研修等に参加し意見交換を図り、サービスの質を向上させていくよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の面接で確認した内容をプランに反映させ、スタッフ内で情報を共有し対応出来るようにしている。入居後には、不安にならないよう傾聴し信頼関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用始めるまでの間、家族の不安や要望」などを聞きながら関係作りを行い、入居後には、特に密な話し合いを持つようにし、聞くことに努めている。又、何でも言えるような雰囲気作りを心掛け、困っている事、不安な事、要望などをよく聞く機会を作り、受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる思いや状況を確認し、支援の提案や相談を行うなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築けるように努力し、関係が一方的にならないように注意をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時又は、お便り等で本人の話題を提起し、意思を大事にしながら本人を支えている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の訪問時には居室でゆっくり過ごして頂けるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来る事を見極めながら、孤立する事のないようスタッフが仲に入るなど声掛け、共に活動を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移ったり、退居になった利用者様へ訪問した事などはあるが、家族との関係継続などは出来ていないと思う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉、表情から、思いや希望を把握するよう努めている。個人の変化で気づいた点などスタッフ全員で共有出来るよう毎日の引き継ぎ、ユニット会議などで話し合いの場を設けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接にて、本人や家族から生活歴やスタイル、趣味やサービスの利用状況を聞き取るなどして情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの状態は日々の申し送りや個人記録に記載し情報の共有を密にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフの気づきや本人の思いを取り入れながら、ケアプランに活かすようにしている。又、家族の意見や要望を反映させるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを用意して食事量、排泄、身体状況、日々の暮らしの様子等を記録し介護計画の見直しや評価に役立てている。、連絡ノートを活用し情報をスタッフ全員が共有出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や商店街の方々の協力とご理解を頂き、温かい目で迎えて下さり、入居者も安心満足されるようになってきている様子が伺える。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族の協力を得ながら、かかりつけ医院への受診を行っている。緊急時などにも医院に相談しながら柔軟な対応、健康管理を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員が連携を図りながら、日々の健康管理を行い、体調の変化や急変があった時は、相談、指示を仰ぎながら対応を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、スタッフが定期的なお見舞いやご家族への連絡などを行いながら経過観察を行い、病院からの退院へ向けた相談などを行っている。又、1ヶ月以上の入院治療が必要になるような場合は、ご家族、病院と連携を取りながら今後についての支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	限定はされてはいるが、かかりつけの往診医からも家族への連絡が図られ、気持ちの上でも、ゆったりとした介護が出来つつある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、スタッフに周知徹底するようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難経路や誘導方法の確認、消火器の使用法等の確認を行っている。運営推進会議で報告なども行っている。今後、地域の方々とも連携を図っていけるようにしたい。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねないような言葉掛けをするように全スタッフで心掛け、スタッフ間でもお互いの声掛けに対して注意しながら対応している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に合わせ、外出や買い物など自己決定出来る場面を作っていけるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	歯磨き時、それとなく鏡を差し出し自分の顔を眺めて頂いている。洋服等のちぐはぐのないような見守りも気配りのひとつである。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物へ一緒に出掛けたり、食事の下処理や盛り付け、後片付けなどスタッフと一緒にしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を作り、摂取量を把握し情報を共有している。刻み、とろみをつけるなど、その方に応じた介助を行っている。献立は、事前に管理栄養士よりチェックして頂きアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け誘導を行ない、口腔ケアを行っている。義歯使用の方には、就寝前に洗浄剤を使用し洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作り、排泄パターンを確認し必要な方には、声掛け誘導を行ないながら対応している。その際には、本人の自尊心を傷つける事がないように注意をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとりて頂けるよう、確認しながら、水分補給に努めたり、腹部マッサージを行っている。適度な運動の機会を設けたり、状態に合わせて下剤を調整するなどして、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2~3回の入浴の機会を持てるように支援している。拒否がある場合は、時間をおいたり、違うスタッフが対応するなどして対応している。個々の希望に応じた入浴が出来ていない時もあるが、可能な限り応じるようにしていきたい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めているが、朝食時間に入眠中なら状態に応じ様子を見、少々の食事の遅れは気にせず入眠頂いている。又、寝付けないときは、温かい飲み物を提供したり、傾聴し安心して頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬の処方箋を整理し、変更のあった場合や追加があった場合、申し送り、記録に残し、常に状況を医師に報告している。服薬ミスを防ぐため、薬チェック表を作り、ダブルチェックし、個々のケースを用意し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事への参加は、常に心掛けて行ってもらえるようにしている。その際には、必ずお礼を言うようにし、張り合いを持って頂けるよう役割、楽しみを見極めながら支援している。散歩、ドライブ、買い物にお誘いし、気分転換して頂いている			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材や必要物品の買出しで毎日のように外出しており、天候、本人の希望に応じてドライブや外食等に出かけ、気分転換を図るようにしている。本人が役所に用事があるも、手、足の震え、失語に慣れていないと理解出来ない方に同行したりしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払い可能な方には、買い物の際に支払いをしてもらっている。事務所で管理している方でも、いつでも使える事を本人に伝え安心してもらっている。毎月、給金を頂いている方は、デイケアを利用されたときなど買い物をされている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが届くのを楽しみにしている利用者様もおり、手紙の返事を一緒に書いたり、電話が掛かってきた時はその都度本人に代わりお話し頂いている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、懐かしい音楽を流したり、ビデオをつけたりしている。出掛けた際の写真を飾ったり、季節に合わせた装飾や花を飾るなどして居心地の良い空間をつくるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにベンチを置き、思い思いに座り過ごす事が出来る。利用者様同士で話がしやすい様に座席配置に気を配っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、馴染みのある物を持って来て頂き、安心して過ごせるように工夫している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の確認が出来るように名前を貼っている。施設内には段差もあり注意が必要な部分も多いので見守りをしながら、自立出来るよう対応していきたい。			